

# 事業報告書

令和5年度

令和5年4月1日～令和6年3月31日

学校法人 常磐会学園

認定こども園

常磐会短期大学附属茨木高美幼稚園茨木高美幼稚園

## 法人の概要

### (1) 学校法人常磐会学園

- ・住所：大阪府大阪市平野区平野南4-6-7
- ・電話番号：06-6709-3170
- ・ファックス：06-6709-2201
- ・ホームページ：<https://www.tokiwakai.ac.jp/aboutus/tokiwakaigakuen>
- ・メールアドレス：[tokiwajc@skyblue.ocn.ne.jp](mailto:tokiwajc@skyblue.ocn.ne.jp)

### (2) 理事長名：岡本 和恵（おかもと かずえ）

- ・理事 10 人、監事 2 人 定例理事会年 12 回開催（毎月）
- ・評議員 25 人 定例評議員会年 3 回開催（5 月・2 月・3 月）

### (3) 設置する部門名

- ・常磐会学園大学
- ・常磐会短期大学
- ・認定こども園 常磐会短期大学附属常磐会幼稚園
- ・幼保連携型認定こども園 常磐会短期大学附属いずみがおか幼稚園
- ・認定こども園 常磐会短期大学附属茨木高美幼稚園

### 認定こども園常磐会短期大学附属茨木高美幼稚園

- ・住所：大阪府茨木市小川町7-3
- ・電話番号：072-622-2052
- ・ファックス：072-622-2067
- ・ホームページ：<https://ibarakitakami-youchien.com/>
- ・メールアドレス：[ibarakitakami@seagreen.ocn.ne.jp](mailto:ibarakitakami@seagreen.ocn.ne.jp)
- ・定員207名

令和5年度 事業報告

1. 園児の確保

(1) 園児数（令和6年3月1日現在）

・令和5年度より、認可定員を210名から207名に変更

歳児	認可定員	認可定員内訳	1号認定	2号認定	3号認定	実員内訳	実員予定	組数
1歳児	27	12	/	/	27	12	27	1
2歳児		15				15		1
満3歳児	180	60	6	—	/	59	180	3
3歳児		60	38	15		61		
4歳児		60	50	11		60		
5歳児		60	54	6		60		
合計	207	207	148	32	27	207	9	

(2) PRの方法

- ① 認定こども園移行に伴い、ホームページで最新情報の更新を行ったが、現行のシステムでは、地域への案内や保育受付、在園児保護者への情報提供、必要書類のダウンロードなど、現在のニーズに応じきれない課題があるため次年度はホームページのリニューアルを行う。
- ② 未就園児ニコニコクラス、満3歳児クラスの入園時期を早めに更新し、令和6年度3歳児の入園児確保に努めた。
- ③ 未就園親子の園開放（ピョピヨクラス）を再開し、園庭、子育て支援室（どんぐりルーム）を月3～4回（水曜、土曜）定期的に開放した。認定こども園としての開催時期を考慮し日程を決め、保護者ボランティアを募集し、保育参加の機会と園のPR紹介もかねてかかわってもらった。
- ④ 家庭と地域の連携事業の一環として高美太鼓、地域小学校の餅つき大会の参加、地域の文化祭への作品出展など、地域行事へ参加した。
- ⑤ 本園の教育・保育、環境や遊びの大切さについて、入園説明会（予約制）を土曜にも開催し入園児募集広報を行った。昨年度の実績を基に集団説明会を増やし、土曜に個別対応での相談会も実施したことで、園を身近に感じ好きな遊びから学ぶ教育・保育方針への共感を得ることができた。保護者の不安や質問に丁寧に答えることで、園児獲得につながった。
- ⑥ 2号3号認定の募集方法の変更などについて直接市の担当者と面談し、情報収集に努めた。市の利用者調整時期の分散に合わせ順次、施設見学や説明、問診会を実施した。パワーポイントを工夫しこども園の良さと質の高い教育・保育を目指していることを広めるとともに、2、3号認定児の定員充足を行った。

(3) 入園選考方法

- ・（1号認定）入園相談会の回数を増やし、本園のあり方について理解したうえで入園を希望した者について入園願書を受け付けた。きょうだい関係と未就園児ニコニコ組を優先し残りの枠を抽選とした。昨年度の先着順での待ち時間・待機場所などの課題が解決し、公正な抽選を行ったことで近隣の方への迷惑も軽減した。
- ・（2、3号認定）茨木市の募集方法に沿って行った。
- ・親子面接にて子ども観察を行った。療育を受けている子どもは、入園後の保育時間の相談や今後の連携について関係構築に努めるとともにアレルギー給食提供児保護者とは別日、給食業者、園の管理職・看護師と面談を実施し入園前の連携を図ることで安全管理に努めた。

## 2. 教育・研究の推進

### 【教育目標】

“ゆたかなこころ”と“たくましいからだ”をもち主体性のある幼児の育成をめざす

- ・力いっぱい遊ぶ明るく元気な子ども
- ・なかよく助けあって遊べる子ども
- ・よく見、よく聞き、よく考え、自分の力でやりぬく子ども
- ・心の優しい子ども
- ・素直に表現する子ども

### 【重点課題】

- ・園の教育内容や子どもの育ちを保護者や地域に伝え、本園教育の理解を推進する。
- ・園内での研修・研究を充実させ、教職員の資質向上と保育の質の向上を図る。
- ・小学校や地域との連携、交流活動の充実を図る。
- ・新しい園舎での安全な過ごし方について、教職員間で共通理解をするようマニュアルの完成、再考を行う。

### 【研究テーマ】

「子ども理解と遊びの理解を深める」

「園内研修の充実を図り、保育の質の向上をめざす」

#### (1) 認定こども園としての教育・保育の創造

- ①子どもの活動の一場面を写真やエピソード事例としておこし、その姿から10の姿をもとに育ちをよみとり、子ども理解や保育の充実につなげていった。
- ②茨木市の非認知能力育成の取組み「茨木っ子力」とも照らし合わせ、子どもの育ちを見極める視点とし幼小中の育ちのつながりや見通しをもつ保育を意識して行った。
- ③教育課程、指導計画のベースを基に日々の見直しを進めた。
- ④子どもが主体的に活動できるような指導や環境の構成、行事の在り方について学んだ。
- ⑤1、2歳児クラスとのつながりや連続性、また教職員間の働き方の違いについて認定こども園として新たに見直す機会をもった。
- ⑥園の教育目標に沿った子どもの育ちについて、令和5年度に引き続き、記録をとりそこからの遊びについて見取りを行い、幼児理解を深めた。
- ⑦令和5年からの「10の姿」を見据えた育ちの園内研究会を日々の保育に活かせるよう、各クラスのエピソード記録を集めて話し合い、主体性、非認知能力の育成と教師、保育者の援助や環境構成の工夫、充実を図り指導力の向上に努めた。
- ⑧本園の保育内容や遊びについて、教師・保育者の資質向上につながるよう専門講師に見ていただき園内研修会の充実をすすめた。
- ⑨2学期後半の作品展では、保育向上のための日頃の教師・保育者の研究の視点や取り組みを子どもたちの実際の遊びの写真の記録を提示し、幼児期に育てたい10の姿のキーワードに、保護者が触れる体験コーナーを設置し啓発した。保護者からは「子どもの遊びを見る目が変わった」「預かって見ているだけではない事が分かった」などの声が聞かれた。
- ⑩園内で研修した内容を保育参観やクラス配信ブログで保護者向けの内容に置き換えて伝えたり、年度末に「保育の芽」にまとめ発行したりした。
- ⑪認定こども園となった3付属園で連携をとりながら、地域、形態の差を考慮し互いの保育の資質向上や園児募集方法など合同で話し合う場を設けたり新任教諭の育成のための研修を行ったりし個々の保育形態や働き方など互いの資質向上ができるよう取り組んだ。

#### (2) 園児の生活の充実と安全確保

- ①インクルーシブ教育について担任だけでなく兼任教員との連携を密にし、みんなが過ごしやすい園内環境と指導方法を考え合った。また関連機関との連携を広げていった。
- ②認定こども園になったことを機に茨木市の巡回を積極的に取り入れた。月に1～3回、来園し臨床心理士の専門的な手だてを実践したり、保育時間内に発達検査や保護者面談を実施することで保護者にとってより身近に感じられる工夫を行った。
- ③新型コロナや感染症の第5類への移行を受け新しい生活環境の中で子どもの生活に応じた環境の在り方を考え整えた。

(3) 特別活動

① 未就園児親子保育（ニコニコ）

- ・対象児は、令和2年4月2日～令和3年4月1日生まれで他の幼稚園・保育所に在籍していない幼児とし火・金の1クラス6名とした。年中児、年少児、2歳児クラスが、ニコニコと同じ遊び場を共有したりお楽しみ会を企画して触れ合ったり交流を行い、園の教育内容をニコニコの保護者に伝えてきたことで、6名全員が本園への入園希望につながった。

② 未就園児親子への園開放（ピヨピヨ）

- ・コロナ禍で中止していた未就園親子の園開放は、認定こども園としての開放義務化に沿い、開催時間を一定にし、未就園児親子の予約を受付け、天候に関わらず年間を通じて実施した。在園保護者による保育ボランティアが園の教育保育内容を伝えたり、子育て経験を語るなど自然な交流を図ったりすることができた。本園をより身近に感じ継続して予約を取り再開を喜ぶ声が多く聞かれた。

③ 未就園保護者対象子育て相談（モシモシ）

- ・認定こども園の子育て支援事業対象とした子育て相談（モシモシ）を開催した。地域の未就園親子を対象とした子どもの養育に対する相談を受け付け多様な相談時間を設けることで相談者のニーズにこたえた。相談内容によってはキンダーカウンセリングや地域の相談窓口として機関につないでいった。相談日、時間をピヨピヨと同様に設け、より親しみをもち身近に感じて相談できる雰囲気を作った。広報として広く知らせる工夫の必要性を感じる。

④ 預かり保育（パオパオ）

- ・家族の通院、小学校の参観、懇談等の行事での利用、スポーツクラブや英語教室の課外活動の空き時間の利用が多く、年間で延べ4,000人が利用した。新2号認定児の利用は保護者就労時間のみで毎日の利用は少ない家庭が多い一方で、2号認定待機をしている就労家庭の毎日の利用が増え、水曜や午前保育・長期休業期間の給食提供への要望が出ている。また、茨木市による認定こども園移行に伴う令和5年度内の2号認定への認定区分変更の措置を知り、順次2号認定の承認を受け認定区分の異動が増えた。各学年2号認定児の定員15名に到達しつつある。

⑤ 小中学校や地域との連携

- ・地域の小中学校や療育機関などの外部との専門機関との交流会へ参加し、幼稚園と地域の取り組みについて意見を交わし本園の教育力の向上につなげた。
- ・家庭と地域の連携事業の一環として高美太鼓、地域小学校の餅つき大会の参加、地域文化祭への作品出展など地域行事に積極的に参加した。
- ・建て替え工事が終了し、地域に開かれる幼稚園をめざしているが、見える化を不快に感じる住民からの相談や保護者の並び方、帰り方のマナーについてのご意見があり、その都度真摯に対応した。

3. 人事・組織

	令和5年度 (5月1日現在)	備 考
園 長	1	
教 頭	1	
主幹教諭	2	
指導教諭	1	
教 諭	8	
専任職員	2	事務担当2名
兼任教諭	1 1	
兼任職員	2	看護師含
合 計	2 8	

4. 施設・設備の整備

- (1) 建物・施設  
特になし
- (2) 教育研究機器備品  
1、2歳児木製遊具こころんプール  
乳児避難車兼用ハイタイプおさんぽ車  
金澤翔子作品書画「あそびはまなび」
- (3) 管理機器備品  
事務管理用パソコン2台

5. 収支計画

(単位：円)

	事業活動収入	事業活動支出	基本金組入前 当年度収支差額	令和5年度 学納費		
令和3年度	133,210,301	118,463,664	14,746,637	教育充実、 施設整備費	満3歳児・3歳児	60,000円
					4歳児	55,000円
					5歳児	50,000円
令和4年度	491,381,921	357,304,163	134,077,758	教材費	1～5歳児	月額3,600円
				給食費 (3号認定児は保 育料に含まれる)	1号認定児	月額4,700円
令和5年度	232,048,960	217,105,289	14,943,671		2号認定児	月額7,500円
				入園事前準備費	3,000円	